

Dash 3000/4000/5000 患者モニタ

洗浄・消毒について

ユーザーマニュアル(2000966-558B)「メンテナンス」より抜粋

A メンテナンス

概要

生体適合性

意図された通りに使用した場合、本取扱説明書に記載された製品の部品（使用中に患者さんに接触した付属品を含め）は、国際規格の生体適合性に関する要求事項を満たしています。この件に関してご質問がある場合は、GE までお問い合わせください。

保守点検

モニタリング機器や再使用可能な物品のための、効果的なメンテナンススケジュールを確立してください。これには定期的な清掃と点検が含まれます。メンテナンススケジュールは、ユーザーの医療施設の感染制御委員会や生体医用工学室の方針に準拠したものでなければなりません。

ワーニング

—病院や医療施設が、本モニタリング機器に対して効果的なメンテナンススケジュールを採用しなかった場合、不必要な機器の故障や健康上の害が起こる可能性があります。

予防的保守管理や校正が終了しているかについては、機器管理部などに問い合わせてください。詳細なメンテナンスと修理の情報についてはサービスマニュアルを参照してください。

機器を点検する際、以下の点に注意してください。

- 物理的な損傷を見つけ、損傷した部分をすべて交換する。
- コードとプラグに損傷がないか調べ、資格を有するサービス員による修理や交換のスケジュールを立てる。

廃棄処分

ワーニング

梱包材の廃棄 —包装材は、適用される廃棄物管理規則を遵守し、お子様の手の届かない所で処分してください。

ワーニング

廃棄処分 —耐用年数を過ぎた場合は、本書に記載されている各製品およびその付属品の廃棄処分に関する地方都市または国の規制に従い廃棄されなければなりません。製品の廃棄に関してご質問がある場合は、GE または代理店にお問い合わせください。

洗浄と殺菌

手順

ワーニング

—モニタを AC 電源から切り離してから、表面を洗浄または殺菌します。

注意

—こうしないと、外表面の仕上がりが溶けたり、歪んだり、曇ったりし、ラベルに書いてある文字が不鮮明になったり、機器が故障したりする原因となります。

注

更に詳しい情報は、本書の「お問い合わせ先」のページを参照してください。各携帯用機器およびベッドサイドモニタ機器を安全に清掃し、テレメータ送信機、アクイジションモジュール、ベッドサイドモニタ、ECG ケーブルおよびリード線を消毒するためには取扱説明書を参照してください。

注

病院の感染管理および医用生体工学部門に従い、定期的に装置の外表面を定期的に清掃してください。

本装置の外表面を清掃するには、以下の手順を行ってください。

1. タッチスクリーンおよび標準ディスプレイを含むすべてのディスプレイを清掃するには、以下を行ってください。
 - a. ディスプレイの清掃を行う前に、タッチスクリーンおよび標準ディスプレイの電源を切ります。
 - b. 柔らかく糸くずのない布を家庭用ガラスクリーナーで少し湿らせて、外面を拭き取ります。
2. ケーブルおよびリード線を清掃する場合、洗浄液の選択および使用に関する APIC ガイドライン (1996) で推奨されている以下の溶液を使用して、外面を柔らかく、糸くずの付着していない布で拭き取ります：
 - 次亜塩素酸ナトリウム (5.2 の家庭用漂白剤) 最低 1:500 の希釈 (最低 100 ppm の無塩素) および最大 1:10 の希釈。
 - 上記のガイドラインを満たした次亜塩素酸ナトリウム性拭き取り製品ならどれでも使用することができます。

注

使用する前に余分な消毒液は絞ります。

注

金属部品が消毒液に触れた場合、腐食することがあります。

-
3. 清潔な少し湿らせた布で洗浄液を拭き取ってください。
 4. 乾燥した糸くずの付着していない布で完全に乾かし、少なくとも 30 分空気が乾燥します。

注

乾燥時間は、環境条件により異なります。

5. 接続ピンの周囲に液体「溜まり」を生じないように注意してください。溜まってしまった場合、柔らかく、糸くずの付着していない布で液体を吸い取ります。
6. オープンなどによる加熱や太陽熱による乾燥などの方法により、過度に乾燥させないでください。

注意

装置への損傷を防ぐため、以下の点に注意してください。

- 機器をいかなる液体にも浸さないでください。
- 機器に直接液体をかけたりスプレーしたりしないでください。また、接続部または開口部に液体が入り込まないようにしてください。
- 機器を清掃するために、塩化物、ワックス、またはワックス化合物を含む伝導性の液体を使用しないでください。
- 以下を含む液体または製品を使用しないでください：
 - ◆ 以下を含みますがそれに限定されないいかなる種類の塩化アンモニウム：ジメチルベンゼン塩化アンモニウムまたは第四級アンモニウム液。
 - ◆ 研磨性クリーナーまたは溶剤。
 - ◆ アセトン
 - ◆ ケトン
 - ◆ ベタディン
 - ◆ アルコール性洗浄剤
 - ◆ 食用塩
- 機器をオートクレーブまたは蒸気で清掃しないでください。
- タッチスクリーンおよび標準ディスプレイを清掃するには、必ず家庭用ガラスクリーナーを使用してください。

清掃を適切に行わなかった場合の製品または処置への影響

装置を清掃する際に以下の注意ガイドラインに従わなかった場合、以下の事項が発生する場合があります。

- 製品の変色
- 機器ケースの融解、変色、歪み。
- 機器ケースの破損。
- ラベル上の文字のぼやけ。
- 装置の故障および誤作動。
- 無効な保証

使用すべきではない洗浄製品

上記に示した問題の原因となる洗剤製品として、以下のものが挙げられます。ただし、これらに限定されるわけではありません。

- Sani-Cloth[®] ウェットティッシュ
- Ascepti[®] ウェットティッシュ
- HB Quat[®]
- Clorox[®] ウェットティッシュ（漂白剤を含まないもの）
- 市販の洗剤（Fantastic[®]、Tilex[®] など）

上記の製品と同じような活性成分または溶剤を含む製品も使用しないでください。

電導部品

ケーブルとリードワイヤ

注意

—アセトンまたはケトン溶液、オートクレーブまたはスチームクリーナーを使用して、ケーブルやリードワイヤを洗浄しないでください。

注意

—殺菌するかどうかは、ケーブルまたはリードワイヤへの影響に注意して、組織の要件によって決定する必要があります。

温かい湿った布と刺激の少ない石けんを使用して、ケーブルとリードワイヤをきれいにしてください。さらに強力な殺菌（ほぼ無菌）としては、エチレンオキシド（EtO）を使用できますが、この方法ではケーブルとリードワイヤの寿命が短くなります。

注

エチレンオキサイドでの殺菌はお勧めできませんが、ケーブルとリードワイヤには必要なことがあります。頻繁に殺菌すると、ケーブルとリードワイヤの寿命が短くなります。

エチレンオキサイドガス (EtO) での殺菌は、最大温度 50°C で行います。エチレンオキサイドガスでの殺菌後、殺菌装置製造業者の指示に従って炭酸ガス飽和处理を行ってください。

Capnostat センサとアダプタ

センサの洗浄と殺菌は、70% のイソプロピルアルコール、2% のグルタルアルデヒド、または 10% の漂白剤溶液で拭き取って行います。その後、水に湿らせた布とリンスを使用してセンサを拭いてください。使用前の乾燥センサを浸したり殺菌したりしないでください。使用前にセンサの窓がきれい乾燥していることを確認してください。

再利用可能なアダプタを洗浄するには、石けんを含んだ温かい溶液ですすいで、グルタルアルデヒドなどの液体の消毒剤（殺菌または冷消毒）に浸してください。滅菌水ですすいで、十分乾燥してください。

低ボリュームのデッドスペースアダプタを洗浄するには、ETO ガス滅菌法または蒸気加圧滅菌器を使用して殺菌してください。蒸気加圧滅菌器を使用すると、アダプタの寿命を短くすることがあります。

アダプタを再利用する前に、センサの窓が乾燥しており、残留物がないことを確認してください。アダプタが、取り扱い、洗浄、または殺菌中に損傷していないことを確認してください。

NBP 血圧バンドとホース

NBP 血圧バンドを洗浄するには、製造業者に問い合わせ、正確な洗浄情報を得てください。使用する洗浄液がバルブに入らないことを確認してください。バルブに取り込んだ液体がモニタに入り、モニタを損傷することがあります。

その他

温度センサ、カテーテル、パルス酸素濃度計プローブ、および NBP 血圧バンドなどの他の導電部品については、洗浄、滅菌、または殺菌方法をメーカーに問い合わせてください。